

											昭 20	年 月 日	第一四一警備隊 略歴 通称号 朝第七六一二部隊
8	8	8	8	8	8	4	8	8	8	8	2		
20	10	15	14	12	9	28	26	24	22	20	6		
<p>羅南練兵場に集結</p> <p>威鏡北道魚遊洞に転進、同日武装解除</p> <p>停戦</p> <p>羅南着</p> <p>主力元山出発</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>一部は虎島に移駐、火薬庫の警備</p> <p>元山に駐留、羅南師管区司令官の隷下に入り鉄道警備に従事</p> <p>威鏡北道富坪到着</p> <p>釜山上陸</p> <p>宇品出帆</p> <p>大阪出発</p> <p>中部第二二部隊（大阪）において編成完結</p> <p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p>											概要	要	
												摘要	

0792

	昭 21
	8
	21
<p>隊 長 少 佐 佐 々 木 清 四 郎</p>	<p>主力は斗南洞 一部は吉州において武装解除 その後第二中隊とほとんど同一行動</p>

0794

至自											昭 20	年 月 日	第一四二警備大隊 略歴 通称号 朝第七六一三部隊		
9	8	8	8	8	8		4	4	3	3	3			2	概
1	23	20	15	14	9		25	20	25	24	21			20	
古茂山において第四作業大隊に編入 古茂山に収容 魚遊洞において武装解除 各中隊共羅南に集結、一部羅南付近の戦闘参加 日「ソ」開戦 鉄道警備、陣地構築に従事 威鏡南道威興に移駐 富坪出発 威鏡北道富坪着 釜山上陸 宇品出発 大阪出発 中部第二三部隊（大阪）において編成完結 軍令陸甲第二一号により編成下令															
													摘要		

0795

	至自	昭 21
	4 4 4	8
	18 9	6 9
隊 長 大 尉 江 川 勝	古茂山出完 クラスキー経由入「ソ」	迄清津の阜頭作業に従事

0796

至自											昭 20	年 月 日	第一四三警備大隊 略歴 通称号 朝七六一四部隊	
10	8	8	8	8	8	8	8	4	3	3	2			概 要
20	22	20	16	10	15	14	18	9	24	21	19			
古茂山出発、同日延吉(間島)收容所着 古茂山收容所入所 朱乙において武装解除 朱乙に向い後退 羅南南側高地の陣地構築、停戦 清津付近において戦斗参加 成津出発 本部 日「ソ」開戦 威鏡北道城津着、同地付近の鉄道警備に従事 字品出発 和歌山出発 中部第二四部隊(和歌山)において編成完結 軍令陸甲第二一号により編成下令											概要			
											摘要			

0797

至自	昭 20				昭 21								
	9	8	8	8	6	5	3	8	8	8	8	7	11
下旬	22	19	18	15	15	30		22	17	15	15	14	3
古茂山第一、第六各作業大隊等に編入	朱乙において武装解除				興南經由入「ソ」				朱乙出發		羅南に移動		間島經由入「ソ」
	羅南出發 朱乙着				第二中隊				清津に後退付近の戦闘に参加、停戦		第一中隊		
	咸鏡北道清津において戦斗参加				興南着				朱乙に向う、同地において武装解除		羅南に着		
	清津出發 同日羅南警備				古茂山出發				古茂山着、古茂山第一作業大隊に編入				

							昭 20	年 月 日
8	8	4	3	8	8	8	2	
10	9	20	26	23	21	16	6	
<p>軍令陸甲第二一号により編成下令 中部第二四部隊（和歌山）において編成完結 和歌山出発 宇品港出帆 釜山上陸 威鏡南道龍崗に到着 羅南師管区司令官の隷下に入る まで待機 本部、第二中隊は威鏡北道清津、第一中隊は昭和二十年六月下旬古茂山に移動 第三中隊は古茂山に内一分隊は蒼坪洞に各々移動し鉄道警備並に主要設備の警備に任ず 日「ソ」開戦、全部隊清津に集結命令 全部隊清津に集結 本部、第一中隊は高抹山、第二中隊は双燕山にそれぞれ陣地占領</p>							概	要
							摘要	

第一四四警備大隊

通称号 朝第七六一五部隊

0800

	昭 20	昭 21	昭 20
	11	6 6 9	8
	18	上旬 下旬	15 11
隊 長 大 尉 竹 原 清 海	一部延吉において解散	同地出発 クラスキー經由入「ソ」	第三中隊高抹山に移動 主力（本部、第一中隊、第三中隊）は双燕山に転進戦闘 停戦、停戦後部隊主力は羅南に集結 羅南において武装解除 一部朱乙において武装解除 古茂山収容所へ入所 主力古茂山第六作業大隊に編入

0801

						年 月 日
						昭 20
	8	8	5	3	3	2
	14	9	1	26	21	6
<p>事</p> <p>日「ソ」開戦、本部、第一中隊は威鏡北道青鶴方面、第二中隊は橋洞、第三中隊は羅津南方に出動</p> <p>本部、第一中隊は清津北方二〇二高地において第二中隊は橋洞において、第三中隊は富寧付近において戦闘</p>						概
						要
						摘 要

第一四五警備大隊 略歴

通称号 朝第七六一六部隊

概

要

摘
要

軍令陸甲第二一号により編成下令

中部第三六部隊（福井県敦賀）において編成完結

宇品港出発

威鏡北道会寧着

本部、第一中隊は会寧

第二中隊偈間、第三中隊羅津に駐屯

それぞれ鉄道警備

第一中隊、第二中隊の各一ケ分隊在会念諸部隊および勤勞奉仕隊（一般邦人）を以て作業隊を編成、威鏡北道山城山陸軍演習場において松根油採収作業に従

事

日「ソ」開戦、本部、第一中隊は威鏡北道青鶴方面、第二中隊は橋洞、第三中隊は羅津南方に出動

本部、第一中隊は清津北方二〇二高地において第二中隊は橋洞において、第三中隊は富寧付近において戦闘

昭 20	昭 20						至自 昭 21				至自 昭 20							
4	11	8	8	8	8	8	4	4	4	6	6	9	9	9	8	8	8	8
25	21	23	22	21	19	17	13	9	6		上旬	下旬	上旬	1	23	20	19	17
<p>雄基に出動中の一部は同地において鉄道警備</p> <p>延吉収容所入所、八路軍により市民として解放</p> <p>古茂山収容所入所</p> <p>富寧収容所入所</p> <p>富寧において武装解除</p> <p>古茂山に後退、停戦、富寧に集結</p> <p>第三中隊の行動</p> <p>第三中隊は富寧において戦闘</p> <p>クラスキー經由 入「ソ」</p> <p>一部古茂山出発</p> <p>クラスキー經由 入「ソ」</p> <p>主力は古茂山出発</p> <p>古茂山に収容</p> <p>古茂山着</p> <p>羅南において武装解除、古茂山に向う</p> <p>本部、第一中隊、第二中隊停戦</p>																		

昭 21								
6 6 5 2 12 8 8 8								
23 7 31 3 15 22 19 9								
隊	長	少	佐	杉	原	喜	美	太
日「ソ」開戦と同時に羅南に向う 停戦 武装解除 古茂山收容所に入る 汽車にて羅津港阜頭作業のため出発 古茂山收容所着 古茂山出発、汽車により本宮へ 本宮（興南）收容所に入所 阜頭荷積作業 興南出発入「ソ」								

0304

昭 20										昭 18		年 月 日	特設警備第四五一大隊略歴
8	8	8	8	8	8	8	8	9	6	12	24		
23	20	18	15	14	13	12	9			12	24	略	歴
<p>軍令陸甲第五八号により編成下令</p> <p>朝鮮咸鏡北道羅南において編成完結（常置員將校一、下士官五）</p> <p>爾後清津において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間教育召集を実施した。</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>防衛召集実施、清津地区の警備にあたる</p> <p>主力は天馬山北区に展開「ソ」軍と交戦</p> <p>駱駄山北側に進出</p> <p>払暁同高地攻撃後鳳岩洞、漁浮洞に集結</p> <p>同地において武装解除</p> <p>羅南に集結、同日羅南出發</p> <p>その間一部の離隊者があつた</p> <p>古茂山收容所に收容</p>													

0805

	昭 21	昭 20
	6	9
	6	2
	6	31
	16	14
	9	9
	31	2
主力は古茂山第三作業大隊に編入 病弱者は間島省延吉収容所に送らる 古茂山出発 興南収容所に収容 興南港出帆 「ボセツト」上陸入「ソ」 一部は作業第一、第六大隊に編入し主力と殆んど同時期に入「ソ」		
隊長 中尉 小林 耕造		

0806

947										年	月	日	略	歴	摘	要	
昭	21	4	8	8	8	8	8	8	8								自昭
	15	31	21	20	18	17	14	14	10					4			
<p>通称号 朝第七四五三部隊</p> <p>軍令陸甲第一号により編成下令</p> <p>朝鮮咸鏡北道羅南において編成完結（常置員將校二、下士官七）</p> <p>爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわた</p> <p>り短期間の教育召集を実施した</p> <p>日「ソ」開戦により防衛召集下令、第四中隊は会寧の警備担当</p> <p>主力は羅南地区の警備にあたる</p> <p>第四中隊主力に合流</p> <p>羅南地区司令官の命により吉州に転進</p> <p>停戦命令受領</p> <p>朱乙にて武装解除</p> <p>部隊の大部解散</p> <p>残留者は古茂山収容所に収容</p> <p>古茂山出発後芬河経由入「ソ」</p> <p>隊長 大尉 山中 勇</p>																	

特設警備第四六一大隊略歴		通称号 朝七四一六部隊	
昭 20	年 月 日	略	歴
2	1	軍令陸甲第一号により編成下令	
8	8	朝鮮咸鏡北道城津において編成完結(常置員将校一、下士官四)	
8	8	爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわた	
8	8	り短期間の教育召集を実施した	
8	9	日「ソ」開戦により防衛召集下令	
8	9	計画に基き ^内 地高周波工場ならびに市内の警備にあたる	
8	15	停戦	
8	23	部隊解散	
8	24	常置員以下残留者武装解除	
		爾後全員解散し部隊としての行動はしなかつたが所在部隊に合流入「ソ」した	
		ものもある	
		隊長	
		大尉 末 広 満 雄	
			摘 要

0808

昭					昭		年 月 日	特設警備第四〇三大隊略歴	通称号 朝第八八三一部隊
20					18				
8	8	8	8	8	6	6			
18	15	13	9	13	24		略	略	
<p>隊長 中尉 斉藤 滝 蔵</p>					<p>軍令陸甲第五八号により編成下令 朝鮮咸鏡南道興南において編成完結（常置員将校一、下士官四） 爾後興南地区において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度に わたり短期間教育召集を実施した 日「ソ」開戦により防衛召集下令 主として同地日本空素会社々員をもつて人員を充足し興南地区の警備にあたる 停戦にともない約一ヶ小隊を残し大部を召集解除 残置者全員召集解除</p>		<p>歴</p>		摘要

0810

					昭	昭	年	月	日	略	略	略
					20	19						
					8	1						
	8	8	8	8	8	4						
	28	22	17	13	9							
<p>朝鮮咸鏡南道北青において編成完結（常置員料校二、下士官七） 爾後同地にありて警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し教度にわた り短期間の教育召集を実施した</p> <p>日「ソ」開戦により防衛召集下令 現地在郷軍人を全員召集</p> <p>咸興地区司令官の命により部隊全員城津に移動 北青において朝鮮人の暴動のため主力は北青に移動</p> <p>咸興地区司令官の命により部隊を解散 常置員は新北青において武装解除</p> <p>部隊としての行動はないが一部「ソ」軍に収容された者もある</p> <p>隊長 大尉 椎 木 巳代治</p>												
											摘	要

特設警備第四〇五大隊略歴
通称号 朝第七四一二部隊

0811

			昭 20	年	特設警備第四〇八中隊略歴 通称号 朝第七四八七部隊
			2	月	
			25	日	
	8	8	8		略
	23	15	9		
隊長 中尉 湯川正雄	茂山に集結、部隊解散		阿吾地付近の警備 停戦	朝鮮咸鏡北道阿吾地において編成完結（常置員将校一、下士官三） 爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し教度にわたり短期間の教育召集を実施した 日「ソ」開戦により防衛召集下令	
					摘要

0812

953の2

			昭
			20
	11	10	10
	2	29	25
	隊長	入「ソ」(ボシエツト)	興南港出帆 本宮に移動
	少尉 加納 武男		

0814

954										昭 20	年
12	9	8	8	8	8		8	8	8	2	月
6	上旬	23	20	23	19		15	13	9	23	日
<p>第四〇九特設警備工兵隊略歴</p> <p>通称号 朝第七四五四部隊</p>											
<p>略 歴</p>											
<p>朝鮮咸鏡北道会寧において編成完結(常置員将校一、下士官五)</p> <p>爾後同地において警備業務に従事するとともに在郷軍人に対し教度にわたり短期間教育召集を実施した</p> <p>日「ソ」開戦により防衛召集下令</p> <p>会寧出發</p> <p>羅南着</p> <p>羅南師管区司令官の命により第二〇二、第三〇三高地等の配備につき「ソ」軍と交戦四〇余名の戦死傷者を生じた</p> <p>主力は羅南付近にて武装解除</p> <p>古茂山に収容</p> <p>一部は清津において武装解除</p> <p>古茂山に収容主力と合流</p> <p>古茂山第三作業大隊に編入</p> <p>羅津埠頭整理作業のため一部の者は古茂山出發</p>											
<p>摘 要</p>											

0815

				昭 21	
		6	6	5	1
		16	14	30	16
		入「ソ」	興南港出帆	古茂山出発	右作業終了古茂山帰着
	隊長				
	中尉				
	岩				
	村				
	茂				
	夫				

0816

	昭 21
	6 5
	23 31
中尉 石井三男	古茂山出発 興南港出帆入「ソ」 隊長

956											年 月 日	羅南地区司令部略歴	
昭										昭			略
21	4	9	11	10	9	8	8	8	8	8			
13	上旬	7	27	上旬	23		20	15		13	9	24	略
<p>朝鮮咸鏡北道羅南において編成 爾後同地において咸鏡北道地域の警備 日「ソ」開戦により防衛召集実施 羅南師管区第一支隊（陀美支隊）を編成、第一四二、第一四三大隊等を指揮し 清津地区、羅南地区等の戦闘に参加 夕刻羅南師管区司令官の命により朱乙に転進したが停戦となる 羅南に集結、武装解除 現地応召者を召集解除 古茂山に収容 将校は將校大隊に編入 延吉収容所に収容、同地所在將校大隊に編入 満洲里經由入「ソ」 下士官以下古茂山第四作業大隊に編入 琿春經由入「ソ」</p>													略
<p>司令官 少将 美 浩</p>													摘要

0819

957										年 月 日	略 歴	羅 南 陸 軍 兵 事 部 略 歴
昭 20												
10	11	10	10	9	8	8	8	8	8			
初	2	28	15	25	27		23	13	9	1		
<p>朝鮮咸鏡北道羅南において編成 爾後同地において兵事業務に従事 日「ソ」開戦</p> <p>主力は羅南地区司令部に編入、爾後同司令部と同行動、一部吉良中佐以下二〇 名は吉州に移動、兵事業務を続行中停戦となる</p> <p>吉州において武装解除 現地応召者を召集解除</p> <p>羅南に集結、同地に収容 咸興に収容</p> <p>将校は将校大隊に編入 興南港出帆</p> <p>入「ソ」</p> <p>下士官以下咸興所在作業大隊に編入、入「ソ」</p>												
<p>部長 少将 陀美 浩</p>												摘 要

0820

958											昭 20	年 月 日	威 興 地 区 司 令 部 略 歴		
10	10	9	9	8	8	8	8	8	8	3					
29	1	20	2	23	22	20	15		12	9	24	朝鮮威鏡南道威興において編成 爾後同地において威鏡南道地域の警備 日「ソ」開戦 司令官以下主力は城津に移動、羅南師団区歩兵第二補充隊および特設警備第四 六一大隊を指揮し戦闘に参加 一部（主として女子軍属）は威興にありて防空通信に従事 停戦 軍属を解雇 現地応召者を召集解除 主力は城津において武装解除後羅南に向け行軍 羅南より威興に向け行軍 威興に收容、威興残留の一部合流 将校は興南に移動 興南港出帆	略	歴	摘 要

0821

			昭 20
		10 10 11	
		8 3 2	
	司令官	興南港出帆入「ソ」	入「ソ」
	少将 今泉吉貞	下士官以下作業第一五大隊に編入	

0822

		昭 20		昭 14		年 月 日		略 歴		摘 要	
10	10	10	8	8	8	8	8	8	14	8	
8	7	28	26	23	15	12	9	1			
<p>朝鮮咸鏡南道咸興において編成 爾後同地において兵事業務に従事 日「ソ」開戦 部長、地区司令官として城津に出動後梁取大佐兵事部職員を指揮し兵事業務続 行 停戦 咸興において武装解除 同日現地応召者を召集解除し軍属を解雇 残余の職員中将校は定平に下士官は富坪に収容 将校は咸興将校大隊に編入、興南港出帆入「ソ」 下士官以下富坪出発 作業第一五大隊に編入興南港出帆入「ソ」 部長 少将 今 泉 吉 貞 (地区司令官兼任)</p>											

0823

年月日	略	歴	摘要
昭 20			
4 2			
7 28			
		<p>昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三三號臨時動員下令により第三〇師団南方転出に伴い同月二十九日留守第三十師団司令部となる</p> <p>軍令陸甲第三四四號臨時動員下令</p> <p>平壤において留守第三〇師団を復帰し平壤師管区司令部編成完結</p> <p>隷下部隊</p> <p>平壤師管区歩兵第一補充隊</p> <p>平壤師管区歩兵第二補充隊</p> <p>平壤師管区砲兵補充隊</p> <p>平壤師管区工兵補充隊</p> <p>平壤師管区通信補充隊</p> <p>平壤師管区輜重兵補充隊</p> <p>第一五〇警備大隊</p> <p>第一五一警備大隊</p> <p>第一五二警備大隊</p>	

平壤師管区司令部略歴
(第三〇師団司令部)

0824

	<p>第一五三警備大隊 第一五四警備大隊 特設警備第四五三大隊 特設警備第四五四大隊 特設警備第四〇九中隊 特設警備第四一〇中隊 第四〇二特設警備工兵隊 第四一三特設警備工兵隊 第四一三特設警備工兵隊 平壤地区司令部 平壤陸軍兵事部 新義州地区司令部 新義州陸軍兵事部 海州地区司令部 海州陸軍兵事部 平壤第一陸軍病院 平壤第二陸軍病院</p>
爾後平壤地区の防衛ならびに満洲、支那、南方、南鮮、内地等に対する人員補	

昭 21										昭 20				
1	1	10	10	9	9	10	10	9	8	8	8	8	5	
7	3	20	18	15	2	30	26	2	26	18	15	9	頃	
<p>充業務に従事 より黄海道沿岸地域の陣地構築実施、平安南北道の防衛に任ず 日「ソ」開戦 開戦前の態勢を続行 停戦 現地応召者を召集解除（但しその後再召集） 爾後八月三十日にわたり軍属を解雇備 平壤秋乙において武装解除 将校は美勒洞に收容、将校大隊（長大橋大佐）に編入 美勒洞出発 興南經由入「ソ」 下士官以下三合里に收容 同地第一作業大隊に編入 同地出発 興南着 興南港出帆 入「ソ」 司令官</p>														
<p>中將 竹下 義晴</p>														

962										年 月 日	略 歴	摘 要
昭 20												
10	10	9	8	8	8	8	5	4	2			
30	26	2	28	26	18	9	頃	7	28			
<p>昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三号により臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日歩兵第七七連隊は歩兵第七七連隊補充隊となる</p> <p>軍令陸甲第三四号により臨時動員下令</p> <p>平壤において歩兵第七七連隊補充隊を基幹として編成完結</p> <p>爾後同地区の警備ならびに他地域への人員の補充等に従事</p> <p>より主力は黄海道沿岸防備のため苔難、甕津付近において陣地構築</p> <p>日「ソ」開戦により各隊は原駐地に帰還平壤付近の陣地構築準備中停戦となる</p> <p>現地応召者を召集解除（その後再召集）</p> <p>平壤において武装解除</p> <p>秋乙に集結</p> <p>将校は美洞洞に収容</p> <p>将校大隊（長大橋大佐）編入</p> <p>美洞洞出発</p> <p>興南港出帆</p>												

平壤師管区歩兵第二補充隊略歴
(歩兵第七七連隊)

通称号 朝第四四部隊、朝第二四四部隊

					昭 20
	12	10	9	9	11
	24	8	8	2	3
<p>入「ソ」</p> <p>下士官以下三合里に收容</p> <p>第二作業大隊編入</p> <p>三合里出発興南に移勅</p> <p>興南港出帆入「ソ」</p> <p>隊長</p> <p>大佐 鈴木仙吉</p>					

昭 20										年 月 日	平壤師管区砲兵補充隊略歴 (野砲兵第三〇連隊)
9	8	8	8	8	8	5	4	4	2		
2	26	18	15	10	9	頃	7	1	28	昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三三號臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日野砲兵第三〇連隊は野砲兵第三〇連隊補充隊となる	通称号 朝第四七部隊、朝第二四七部隊
<p>軍令陸甲第三四号により臨時動員下令 編成着手</p> <p>平壤において野砲兵第三〇連隊補充隊を基幹として編成完結</p> <p>爾後同地区の警備ならびに他地域への人員等の補充業務に従事</p> <p>より一部をもつて黄海道沿岸の防備、陣地構築等に従事</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>平壤付近の陣地構築に着手</p> <p>停戦</p> <p>一部の黄海道沿岸派遣隊原隊復帰</p> <p>現地応召者を召集解除(その後再召集)</p> <p>秋乙において武装解除</p> <p>将校は美勒洞に収容、将校大隊編入</p>										略	歴
										摘	要

0831

昭 21								昭 20		
6	6	12	12	9	9	11	10	10	10	
16	14	29	20	上旬	2	3	30	26		
隊長		興南港出帆 入「ソ」	興南第一四作業大隊に編成替	興南着	三合里出発	三合里第二一作業大隊編入	下士官以下三合里収容	入「ソ」	興南港出帆	美勒洞出発
中佐 大竹 喜代治										

昭 20											年
11	10	9	8	8	8	8	5	4	4	2	月
1	26	2	26	17	15	9		7	1	28	日
<p>昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三號臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日工兵第三〇連隊は工兵第三〇連隊補充隊となる</p> <p>軍令陸甲第三四号により臨時動員下令</p> <p>編成着手</p> <p>平壤において工兵第三〇連隊補充隊を基幹として編成完結</p> <p>爾後同地区の警備ならびに主として南鮮への人員補充業務に従事</p> <p>以降本部を沙里院に置き黄海道沿岸の警備、陣地構築に従事</p> <p>日「ソ」開戦により部隊の約半数を平壤に移動同地区の陣地構築に着手</p> <p>停戦</p> <p>以降現地応召者を召集解除（その後再召集）</p> <p>平壤において武装解除</p> <p>将校は美湖洞に収容、将校大隊に編入</p> <p>同地出発</p> <p>興南港出帆入「ソ」</p>											略
通称号 朝第四八部隊、朝第二四八部隊											略
平壤師管区工兵補充隊略歴 (工兵第三〇連隊)											略
											摘要

0833

昭										昭
21										20
7	6	6	6	6	4	12	12	11	9	9
12	11	上旬	14	中旬		29	20	12	10	2
<p>下士官以下三合里に収容</p> <p>同地第二一作業大隊、第一九作業大隊等に編入</p> <p>病弱者は延吉収容所に移動</p> <p>三合里出発</p> <p>興南着</p> <p>興南第一四作業大隊に編成替</p> <p>山本大尉以下約五〇名元山鉄道工場にて作業</p> <p>山本大尉以下興南復帰</p> <p>興南港出帆「ソ」</p> <p>第一九作業大隊は秋乙第三作業大隊に改編</p> <p>三合里出発</p> <p>興南港出帆「ソ」</p> <p>隊長</p> <p>中佐 柳田貞三</p>										

0834

965										年	月	日	略	歴	摘要					
										昭	20									
										2	4	4	5	8	8	8	8	9	2	
										28	1	7		9	15	18	26	2		
										軍令陸甲第三四号により臨時動員下令	編成着手	平壤において留守第三〇師団通信補充隊を基幹とし編成完結 爾後支那、満洲、南鮮、内地等各部隊に対する人員補充業務に従事 以降師管区の黄海道沿岸防備の各陣地ならびに司令部との通信連絡のため海州、 遼津、長淵、信川、沙里院等に通信所を設置	日「ソ」開戦	停戦により黄海道地区派遣中の通信所を閉鎖原隊に復帰	現地応召者を召集解除（その後再召集している）	平壤において武装解除	将校は美勒洞に收容同地將校大隊に編入、同行動	下士官兵は三合里に收容、三合里第二作業大隊その他に編入		

平壤師管区通信補充隊略歴
（第三〇師団通信隊）

通称号 朝第四九部隊、朝第二四九部隊

略

歴

摘要

0835

965の2

	昭
	20
	12 10
	24 8
	爾後病弱者を延吉に移送
	三合里出発
	興南港出帆入「ソ」
隊長	
少佐	
佐藤	
定一郎	

0836

年		月		日		略	歴	摘 要	
昭	20								
8	8	8	8	8	5	4	4	2	
26	18	15	10	9	7	1	28		
平壤秋乙において武装解除		現地応召者を召集解除（その後再召集している）		黄海道沿岸に分散中の部隊を平壤に集結		停戦		平壤付近に陣地構築の準備に着手	
日「ソ」開戦		陣地構築材料の輸送に従事		以降師管区の黄海道沿岸陣地構築のため本部を沙里院に置き長淵、甕津付近の		陣地構築材料の輸送に従事		平壤において輜重兵第三〇連隊補充隊を基幹とし編成完結	
主として満洲、支那、南鮮、内地等の各部隊に対する人員補充業務に従事		軍令陸甲第三四号により臨時動員下令		編成着手		昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三号臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日輜重兵第三〇連隊は輜重兵第三〇連隊補充隊となる		通称号 朝第五〇部隊、朝第二五〇部隊	

平壤師管区輜重兵補充隊略歴
（輜重兵第三〇連隊）

昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三号臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日輜重兵第三〇連隊は輜重兵第三〇連隊補充隊となる

摘要

0837

昭 21	昭 20
6 12 9 10 10	9
7 19 2 30 26	2
<p> 将校は美勒洞に収容、将校大隊編入 美勒洞出発 興南港出帆入「ソ」 下士官兵は三合里に収容、同地第二〇作業大隊編入 三合里出発興南に移動、同地において興南第一三大隊に編成替 興南港出帆入「ソ」 隊長 中佐 大山 巖 夫 </p>	

0838

昭 21				昭 20				昭 21				昭 20
1	12	9	9	9	8	6	6	3	9	10	9	9
3	10	20	15	7	29	21	17	下旬	23	30	30	24
隊長 大尉 西 牧 順 一				両大隊共興南港出帆入「ソ」				主力は興南第二〇作業大隊へ、一部は第九作業大隊に編入 同大隊を解散 興南第二二作業大隊に編入 威興中学校に收容 新幕出発 第三中隊は新幕において武装解除				美勒洞出発
				興南港出帆入「ソ」				秋乙出発 興南港出帆入「ソ」 第三中隊の行動				興南港出帆入「ソ」 下士官兵は三合里第二三作業大隊編入 第二三作業大隊を解散秋乙第六作業大隊に編入